

会 議 名	第1回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会
開 催 日 時	令和6年5月16日（木）18時～19時30分
開 催 場 所	港区役所 9階 914、915 会議室
委 員	（出席者） 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 都立雪谷高等学校 石橋 哲也 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 私立広尾学園高等学校 遠山 夏町 公益社団法人東京青年会議所港区委員会副委員長 橋本 惇巨 私立広尾学園高等学校 廣實 真仁 私立広尾学園高等学校 福田 有佳 認定 NPO 法人 3 keys 代表理事 森山 誉恵 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也 日本女子大学 匿名希望 子ども家庭支援部長 中島 博子 （欠席者） 私立大妻高等学校 松下 向日葵
事 務 局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会 議 次 第	<開会> 1 ご挨拶 2 委員委嘱状の交付 3 自己紹介 4 委員長及び副委員長の選任 5 検討委員会の進め方について 6 区の現状について 7 （仮称）高校生世代の居場所ビジョンについて 8 事務局からの連絡事項 <閉会>
配 付 資 料	資料1 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会 委員名簿 資料2 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会設置要綱 資料3 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会の検討シナリオ（案） 資料4 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会 全体スケジュール（案） 資料5 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会の進め方について（案） 資料6 区内の高校生世代の居場所について（抜粋） 資料7 港区高校生世代実態調査 報告書（概要版） 資料8 （仮称）高校生の居場所ビジョンの検討方法について

	資料 9 第 3 回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会開催日程調整票 参考 1 高校生世代との意見交換会の概要 参考 2 こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する指針」(概要版) 参考 3 こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する調査研究 報告書概要」 追加資料 1 児童館等施設一覧(令和 5 年度事業概要抜粋) 追加資料 2 子ども中高生プラザの配置図(各施設 HP 抜粋) 追加資料 3 児童館等利用状況(事業概要抜粋 平成 30 年度～令和 4 年度) 追加資料 4 児童扶養手当支給状況(令和 5 年度事業概要抜粋) 追加資料 5 高等学校在籍状況(港区高校生世代実態調査報告書抜粋) 追加資料 6 相談一時保護状況(令和 5 年度児童相談所事業概要抜粋) 追加資料 7 港区住民台帳による支所別管内年齢人口表(港区総数)
会議の結果及び主要な発言	
事務局	<開会> 1 ご挨拶 子ども家庭支援部長の中島より挨拶する。 (挨拶)
事務局	2 委員委嘱状の交付 部長の中島より順に交付をする。なお、時間の都合により、有識者の皆様においては、机上の配布をもって委嘱状の交付にかえさせていただく。 (委嘱状交付)
事務局	3 自己紹介 資料 1 の委員名簿に記載している順番で自己紹介をお願いする。 (自己紹介)
事務局	4 委員長及び副委員長の選任 資料 2 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会設置要綱第 3 条に基づき、委員長は委員から互選いただきたい。まず、委員長について、どなたかご推薦いただけるか。
委員 H	僭越ではあるが、こども家庭庁のこどもの居場所部会など歴任され、経験のある青山委員にお願いしたい。 (各委員の拍手により同意)
事務局 委員長	それではここからの進行は委員長をお願いする。 若者の皆さんと共に検討する機会は珍しい。よろしくをお願いしたい。副委員長の選任は要綱に基づき委員長が選任する。本事業をよく理解している行政職員である中島委員にお願いしたい。提案だが、せっかくの機会なので副委員長を二人にして、若者からも一人選任いただきたいが要綱上問題ないか。
事務局 委員長	要綱上は問題ない。 大人と若者に分かれて検討していく機会があるので、そこで決めてもらえればと思うがいかがか。 (異議なし)
委員長	委員会の進行において、発言しにくい場合は後で発言いただいて全く構わな

い。また、各有識者の中には普段「先生」と呼ばれるような人もいると思うが、先生と言わずに、各委員は名前を「さん」付けて呼び合いたい。

5 検討委員会の進め方について

それでは次第5について、事務局から資料を説明する。

(資料説明)

この資料をたたき台として、この会議の進め方自体を考えるということ。何か質問はあるか。

居場所ビジョンを先に策定する意図と進め方を確認したい。このタイミングで決めたものがどれくらい変わらないのか。ビジョンの検討の前にどれくらい理解できるか。

ビジョンを決めるタイミングの理由と修正について、事務局から説明はあるか。

具体的な検討の前にビジョンを議論するのは、居場所の捉え方がたくさんあり、先に方向性や共通イメージを設けたほうが、取組が分散しないためである。

検討委員会の報告書は最後にまとめるが、そこまでは軽微な修正はできる。ただ、中間報告のタイミングから抜本的に変えるというのは難しい。

ビジョンというと重たいが、イメージを共有しようという意図である。第3回目でイメージの明確化を。ある程度の目線を合わせて検討する。

非交流型と交流型について今後テーマがあるが、ビジョンを非交流型か交流型で絞り込む可能性はあるのか。それともそれぞれビジョンを設けるのか。

非交流型と交流型に限定するつもりはない。検討の中で他の視点も出ると思う。令和5年3月の実態調査を踏まえた現状の課題として交流型と非交流型の議論はあるが、それ以外で求める居場所の要素があるかもしれない。

目指すビジョンを実現する取組と、現状の課題を解決する取組と、優先順位をつけて検討していきたい。

今、顕在化している課題は潰し込み、他の取組も検討するということで理解した。

後の次第で説明があるので、また振り返り進め方を議論したい。

6 区の現状について

次第6について、事務局から資料を説明する。

(資料説明)

資料6は港区にある居場所に関連するものを挙げた。

資料7が検討委員会を設置する発端となったアンケート調査の結果である。

居場所は色々あるが、ニーズでいうと一人でいられるものが高い傾向が見えた。しかし、区としてあまりできていない。追加資料は細かく見たいデータを出した。各委員から質問はあるか。

交流型と非交流型について、交流するかしないかは高校生自身が決めることと考えている。子ども中高生プラザでも一人でいたい子は一人にいる。

あえて分けて考えるというのは、ハードとソフトをうまく合わせながら、事業として推進していきたいからか。

調査をした時点では二極で考えていた。調査結果を踏まえて意見交換会をした。その中で、居場所は選択肢であり、利用者によりグラデーションがあると教えていただいた。非交流型については、ハード的に分ける必要があると考えている。

利用している子は何が正解か、どうあるべきかを気にする。交流型の施設だと交流しなきゃ、相談する子がいると相談しないといけないと思ってしまう。

既存の様々な居場所でいろいろな子達は、すごく周りを見て、自分がどう過ごす

委員長	べきかを気にした結果、利用もせずに諦めたり、自分は違うとなると傷つくので近寄らないところがあると感じる。 本質的な話をしている。私は、子ども中高生プラザも、■■■■の施設も視察したことがあるが、二人の意見が良くわかる。 例えば、子ども中高生プラザも交流のみをしている訳ではない。1人でいられることもすごく大事だし両方が大事にされている。 もう一方で、本当に少し状況が辛い子にとっては、もう非交流だけ、もうここは1人で居て良いよ、という場所が切り分けられていることで、利用しやすいこともある。居場所のバランスが大切である。
委員J	私は最近まで■■■■されていた。■■■■されていたと言うと、イメージが悪くて学校でも言えなかった。 利用してみると、他の利用者も元気があるし雰囲気も良い。親と家庭でのこれからのことを真剣に考えていけるすばらしい場所なのに、世間ではイメージが悪い。そういう居場所の良さも伝えていきたい。あまり個人的な話は言わない方がいいか。
委員長	言いたくないことは言わなくて大丈夫。自分のことも含めて、この場で発言してはいけないことはないので、率直に話していただいて良い。
委員H	■■■■学童クラブでも交流型と非交流型の子がいる。来たらすぐ図書室に行き最後までそこで一人でいる。しかし、その子は工作が得意で、工作をする際は交流型になる。全く分離する訳ではなく、自分の居たい場所とそうでない場所があると思う。でもどちらも正解だと思う。 心配なのは、ハードとなると、どちらが行政として予算を得やすいのだろう。100人いるうちの10人にお金をかけるのか。また、各地区に分散なのか、一括型なのか。
事務局	予算は必要性が重要。手法については当然に費用対効果を考える。 今回は、少数の子も多数側になることもあり、多数側の子も少数側に移ることもありえる。規模の問題は出てくる。実態調査結果から非交流型は全体で1か所あれば良いかもしれない。ただし、どういう子が利用するかによって立地も限られてくる。対象層も考えながら総合的に検討したい。
委員K 委員E	高校生世代が求める想いを汲んでいきたい。 私は、■■■■非交流型の人間である。しかし、アルバイトの仲間とは関係は良好だった。学生は、気が合う人と交流するが、アルバイトになると気が合うかどうかは関係ない。 ■■■■役割ある居場所の方が居やすいこともある。1つの目標に向かって取り組むことで、普通に楽しくできる。
委員長 委員B	非交流と交流を分け過ぎない大事な視点ではないか。 ■■■■家に帰りたくないという子が、学校に居ても疲れているし、でも家にも帰りたくないという層が多い。その1つは内向的という要素もあるが、もう1つは家庭に極力帰りたくないけれども、児童養護施設等に行きたい訳ではない、もしくは行けない子の利用率が非常に高い。 今回の趣旨が、非交流と交流だけで議論するのか、より非交流型をどういう人が求めているのかということにもよるが、虐待とか貧困の数字も見ながら考えていく必要あると思う。 家の代わりとして、家は別に新しい人と交流しないと思うが、そういう場所として帰りたくない時の居場所として利用できる要素もある。
委員長	今の議論の延長線だと今の話が出てこないかなと思い、発言した。 港区に通っている子もいれば、港区に帰ってくる子もいる。いろいろな子たちに合わせて考えていかなければいけない。

委員A	■■■■をした生徒がいた。極力、家に帰りたくない、家を出たいと言っている。一人ではなくてそういう子は■■■■いる。■■■■学校と■■■■各居場所と連携が必要と考えている。■■■■
委員長	学校との連携も大事である。学校だからできることもあるし、逆に放課後だからできることも両方ある。
委員C	通学する子は港区の高校生と言って良いと思うので、区民かどうかというよりは、これだけ人が動く区なので、限定せずに議論もして良いと思う。
委員長	■■■■に参加した。私の性格は基本的に外交的だが、当事者として孤独感を感じることが多い。人は何かの面でマジョリティである部分があり、その反面ではこの属性ではマイノリティである部分もあると思い、私自身もすごくそれに当てはまると思う。
委員F	自分と同じ人に会える居場所は大切だと思う。
委員F	非交流型専門の施設という発想がすごく良いと思う。元気な子を見るとそれがストレスになる。学校にも家庭にも居場所がなくて自傷行為があり、カウンセラーに通う友達がいる。友人としてどのように関わられるのか距離が近いために難しく、相談のできるサードプレイスのような、関係性が近すぎない、薄いことにメリットを感じる子もいるかと思う。
委員H	関係が近すぎないということも重要ということか。
委員D	非交流型の人でも自分の好きな部分が見つければ交流活動ができる。でも、自分の好きを見つけれられていない人も多い。自分の好き見つけられる機会を、居場所を通じて提供してはどうか。
委員長	まさに、先ほどの工作が好きな子の話が良い事例である。
委員H	インターネットや情報が多く、好きが多種多様に見つけられる時代において、今の世代の子たちは、どのように自分の好きを見つけれられるか。
委員J	自身も結構考えているが、学校などの集団においては同調圧力がある。例えば、クラスの中心の人が、「俺はバスケ好きだからみんなやろうぜ」のような発言をすると、周りは断りづらくなる。
委員H	逆に自分は、バンバン断る逆張りタイプであるが、周りの人を見ると同調圧力に負けて、自分の好きでないことでもやる。
委員H	選択肢が多い一方で、人間関係が影響して、好きを見失うこともあるのか。
委員長	交流や非交流も複雑な関係があり、引き続き議論をして新しい視点も出てくるかと思う。両方をしっかり議論するスケジュールになっている。ではそのようなビジョンをどのように検討して進めるのか、次の次第に進みたい。必要に応じて、議論を戻しても良い。
委員長	7 (仮称) 高校生世代の居場所ビジョンについて
事務局	資料7について、事務局から資料を説明する。
委員長	(資料説明)
委員B	この議論は、高校生世代の若者チームを中心に議論をお願いしたい。学校でやったことがある人もいるかもしれないが、付箋に思いつくものを記入してほしい。統一感が無くても良い。当日書いても良い。いろんな要素を書いてもらいたい。やり方について、意見はあるか。
委員I	活動で全国の10代の悩みを匿名で聞いているが、友達が死にたいと言っている、困っているのに自分は何もできないことに悩んでいるなど、様々な悩みが寄せられる。内向型や外向型など16タイプの診断などあるが、自分だけでなく、クラスや周りで困っている友人を想像して書いていただいても良い。
委員長	楽しいことや交流に関するものも書いて良い。
委員H	もちろん、両方が必要。
委員H	自分が、色々な人の仲介役になるようなイメージで書いてもらいたい。

委員A	ホームルームでみんなに書いてもらえることもできないか。
委員長	基本的にやり方は、高校生世代の委員に任せる。書きにくくないよう、自分のやりやすい方法で、気負いなく作業してもらいたい。ファシリテーターからなにか補足はあるか。
ファシリテーター	第二回で進行をさせていただく。まだビジョンの正解は見えない状態なので、思いついたものをたくさん書いてもらえたら嬉しい。
委員長 事務局	8 事務局からの連絡事項 最後に、事務連絡を事務局から説明する。 3点、申し上げる。 次回は、高校生世代の委員は6月11日（火）、有識者の委員は6月28日（金）に開催する。いずれも本日と同じ時間を想定している。後日、開催通知をお送りする。 また、第3回開催日程調整表を配布している。委員のご都合を、5月31日までに事務局までお知らせいただきたい。 最後に、次回以降、紙資料が不要の方は、お帰りになる前に、個別に事務局までお知らせいただきたい。
委員長	他になければ、第1回 港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を閉会する。遅くまで、活発な議論をいただき、感謝する。 <閉会>